

合格体験記

22年度 農業土木技術管理士試験を受験して

株式会社 ズコーシャ
参与 山岸 晴見

1. はじめに

近年における官公庁の動向として、平成 17 年度の施行された「公共工事の品質確保の促進に関する法律」では、工事に先立ち行われる調査や設計の品質が、工事の品質を確保する上で重要であると言う基本理念の下、農業農村整備事業に携わる土木技術者は、コンサルタント業務の遂行に当たって、技術力の向上、成果品の品質向上及び照査能力の充実等がより一層求められるようになってきています。

この様な状況の中、(社)北海道土地改良設計技術協会からの助言を頂いたことがきっかけとなり受験することになりました。

2. 試験の内容

試験内容は、調査・設計等業務一般の管理技術力と農業土木分野に関する専門技術力について行われ、下記の通り解答形式は、記述式が 2 問、4 肢択一式が 1 問出題されます。

- ①農業土木分野の事業に関する調査、計画、設計等の専門技術力を問う問題(2,400 字以内)
- ②農業土木分野の各事業における技術的知識や業務請負契約等に関して 60 問
- ③調査、計画、設計等業務の照査等の管理技術力を問う問題(1,600 字以内)

以上の 3 問を午前中に①、午後からは②、③が

行われます。

3. 受験への取組み

試験に対しての予備知識が無く不安に陥りましたが、同年 7 月に本試験の主催者である(社)土地改良測量設計技術協会北海道ブロックの講習会が札幌市で行われ、講師から問題集や解答事例について親切、かつ丁寧な講義を聞き多少なりとも不安感を和らぐことができたものの、久しぶりの受験で試験は 9 月と決まっており、準備期間は約 2 ヶ月半とわずかなため予断を許さず、早速、試験勉強に取り掛かることにしました。勉強は土・日曜日が中心でしたが、職場から帰宅後の時間に余裕がある時にも行うようにしました。

まず、最初に取り掛かったのは解答案を作成し暗記をする必要のある記述式であり、解答案は文書の入れ替えや、字数の調整などが容易なパソコンを利用しながら規定の原稿用紙の枚数に収まるように作成しました。

具体的には、専門技術力を問う問題①は、区画整理事業の実施設計における技術的課題を、特に地元農家との打合せや主要施設の管理者である地元関係機関との対外的な調整を通して解決していた経緯などについて記述することになりました。

述べたいことを文書にすると、どうしても長文になる傾向があるので、項目を小項目に分割し、文面をスッキリさせるため要所要所に箇条書きも取り入れて整理しました。更に当該設計は現況の

用・排水路等の施設配置が大きく変化するため、現況と計画後の施設配置の対比はイラストを取り入れることで見やすく、解り易くなるように工夫をしました。

解答案ができたなら要点は明確か、文書の構成及び表現が適切であるかなどを確認します。

パソコン時代になって筆記する機会がめっきり少なくなっている現状では、解答用紙と同じ400字詰め原稿用紙にひたすら筆記を繰り返して暗記をすることしかありません。しかし、試験日が近づくに伴い焦る気持ちを押さえるのに必死でした。

問題②は4肢択一式であり、農業土木分野の応用技術、基礎技術、業務関連法制度及び技術倫理と極めて広範囲から出題されます。記述式と違って解答が明らかなことから、採点を稼ぐ意味でも解答率を上げることが重要ですので、過年度の講習会で使用した問題集や解答事例のテキストを参考に問題の出題傾向と対策に取り組みました。問題の理解度に応じて蛍光色ペンで区分して整理するように努めました。一方、難しく理解のできない問題については、農業土木用語辞典などの文献の解説を有効に活用しました。また、問題文では「正しいのは」とか「誤りは」と言った表現もあるので十分に注意をする必要があります。管理技術力を問う問題③は、4問から1問を選択するもので、「技術力の向上を図るため組織における取り組みに」を選択し、文書の作成・構成及び筆記などについては問題①と同様な要領で行いました。

4. 試験当日の出来事

万全を期して臨んだ、午前中の問題①は6枚の原稿用紙に記述するものであり、比較的スムーズに進めていましたが、3枚目の後半になってどうもこの調子では6枚目に余白が多くなることに気づ

確認をすると2枚目の中間位からの内容がスッポリと抜けていたのです。その時は目の前が真っ黒になり、しばらく呆然と原稿用紙を眺めているしかありません。今までは何だったのかと自分に言い聞かせ、時間を気にしながら再スタートし、必死に解答用紙に筆を走らせ何とか筆記を終えたものの散々な目に遭いました。

午後からの試験のこととか、にわかな勉強であったのかなどと反省し、日頃からの積み重ねが重要であることを改めて痛感いたしました。

5. 終わりに

農業農村整備事業の業務発注の契約方式は、品質確保、透明性等の更なる向上を図るため、従来の一般指名競争から総合評価方式などへの導入が拡大されており、農業土木技術管理士への期待が高まっています。

この様な背景から、これから受験される方には、問題集や解答事例のテキストも充実しており、効果的な学習方法等を教えて頂ける(社)土地改良測量設計技術協会の講習会を是非受講することをお勧めします。

最後に、(社)土地改良測量設計技術協会などの関係者の熱心な指導や助言を賜り、無事に合格できたことを、この書面をお借りして感謝を申し上げます。